



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立二十四軒小学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

■「学級文庫の貸出」

《活動の目標》

- 学校図書館の蔵書に関心を持ち、読書への意欲を高める。
- 本と出会う楽しさを味わう。
- 学校図書館の利用に興味をもつ。



活動

- 20冊程度を箱に入れて準備する。
- 係の児童が、学級の友達に読んでもらいたいおすすめの本を選書する。
- 係の児童と担任が、紛失を防ぐため定期的に本の所在を確認する。

学習センターとしての機能

■3年国語科「『すがたをかえる 大豆』

～選んだ食べ物について、自ら調べ、伝え合う活動～

《活動の目標》

- 選んだ食べ物について、興味をもって読む。
- 図鑑を読んで、伝えたい情報を読み取り、整理して書こうとする。



活動

- 学習に使えるような図書を担任や開放司書と相談しながら自分たちで選び、誰でも手に取れるようにする。
- 自分で選んだ食べ物について調べ、必要な言葉や文を書き抜いてまとめたことを友達と知らせ合う。

情報センターとしての機能

■「新刊本や発達段階に合った本の紹介」

- 図書館開放司書が手に取りやすい様に、新刊本や学年用図書を書架に配置。
- 夏・冬休みには4冊ずつ貸出。各学年の発達段階に合った本を展示し、子どもたちに紹介。
- 親しみやすい図書館になるよう、掲示物の工夫やイラスト大会などを企画・運営。
- 各学年の学習に使える図書を教職員からのアンケートをもとに積極的に選書。
- 子どもたちの「本紹介カード」を図書館の壁に飾り、幅広い本への興味を喚起。教職員からもカードを募集し、子どもが気軽に手に取れるよう本と共に展示。

